

トビウオ通信 (R8 第7号)

<https://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/> (TEL 0855-22-1720)

《令和8年度日本海スルメイカ漁況予報について》

国立研究開発法人 水産研究・教育機構から令和8年7月31日に「2026年度日本海スルメイカ長期漁況予報¹⁾」が公表されました。本予報は、当センターを含む水産関係研究機関で検討し、同機構水産資源研究所が取りまとめたものです。

今回は、その概要と島根県沖のこれまでのスルメイカ漁況を紹介します。

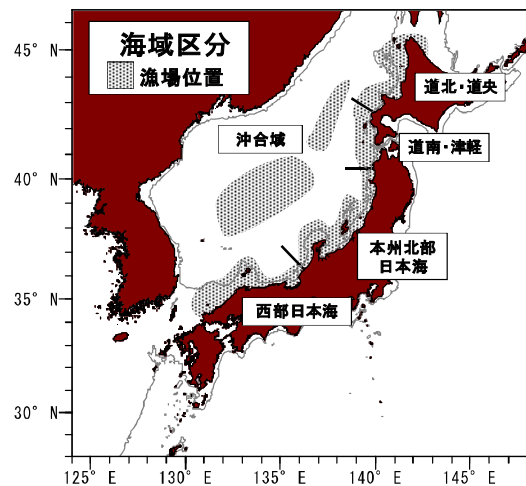
2026年度日本海スルメイカ長期漁況予報における 今後の見通し（令和8年8月～12月）のポイント

対象魚種：スルメイカ

対象海域：日本海（道北・道央海域、道南・津軽海域、本州北部日本海海域、西部日本海海域、沖合域）

対象漁業：主にいか釣り・小型いか釣り漁業

- (1) 全体のポイント
全体の来遊量は前年を下回る。
- (2) 漁場ごとのポイント
 - ・ 道北・道央海域では前年を下回る。
 - ・ 道南・津軽海域では前年を下回る。
 - ・ 本州北部日本海海域では前年を下回る。
 - ・ 西部日本海海域では前年を下回る。
 - ・ 沖合域では前年並み。



出典：2026年度日本海スルメイカ長期漁況予報¹⁾

☞ 「前年」は令和7年を示す。

☞ 道北・道央海域および道南・津軽海域は8月～9月を対象とする。

日本海スルメイカ長期漁況予報

本紙では、島根県沖を含む「西部日本海」及び「沖合域」に関する予報の詳細について紹介します。その他の海域については、国立研究開発法人 水産研究・教育機構が発表した「2026年度日本海スルメイカ長期漁況予報」をご覧ください。

（ⅰ）西部日本海（福井県～長崎県）

西部日本海海域では、10月以降に沖合から南下する群れが漁獲の主体となります。ただし、近年は局所的に漁場が形成される場合もありますが、不安定で継続しにくい傾向が続いています。

本海域の主要港における令和8年5月～6月の漁獲量は、前年（令和7年）を下回りました。また、今期後半（10月～12月）の来遊量の目安となる調査海域全体のCPUE（スルメイカ漁場一斉調査における釣機1台1時間あたりのスルメイカ採集尾数）も、前年を下回りました。

以上のことから、今期の本海域への来遊量は前年を下回り、漁場形成が不安定であると予測されています。

（ⅱ）沖合域（北海道西沖～大和堆周辺海域）

沖合域では、予報期間（8月～12月）を通じて日本海を北上する群れと南下する群れが漁獲の主体となります。

日本海スルメイカ漁場一斉調査の結果では、本海域のCPUEは前年を上回ったものの、過去2番目に低い値であり、分布密度は極めて低い水準と考えられます。よって、今期の本海域への来遊量は前年並みと予測されています。

島根県沖における漁況の経過と今後

県内主要3港（浜田、恵曇、西郷）における小型いか釣り漁業（5トン以上30トン未満）によるスルメイカの月別漁獲動向を図1に示しました。令和8年1月～6月までの漁獲量は約42トンで、同期間で比べると、前年（約88トン）及び近年平均^{*1}（約110トン）を下回りました（前年比48%、近年平均比38%）。8月～12月の予報期間における島根県沖での漁場は、8月から形成されると予測されています。ただし、今回の予報では、今期の西部日本海海域の来遊量は少なく、漁場形成も不安定であると予測されています。以上のことから、今後の島根県沖でのスルメイカ漁況は、平成28年以降と同様、低調に推移すると考えられます（図2）。

※1「近年平均」とは、直近5年間（令和3年～令和7年）の平均を示す。

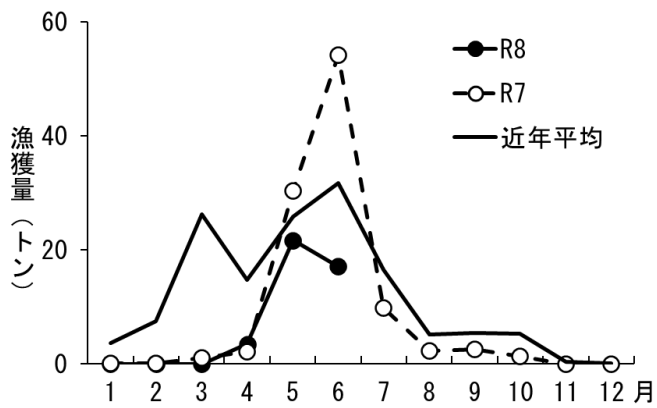


図1 主要3港（浜田、恵曇、西郷）におけるスルメイカの月別漁獲動向
（浜田は属地、恵曇、西郷は属人統計値）

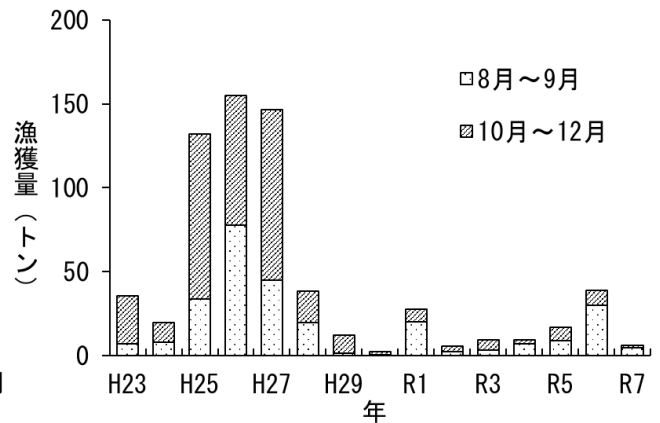


図2 主要3港（浜田、恵曇、西郷）における予報期間（8月～12月）のスルメイカの年別漁獲動向
（浜田は属地、恵曇、西郷は属人統計値）

※本文中で引用した資料

- 1) 国立研究開発法人 水産研究・教育機構「2026年度 日本海スルメイカ長期漁況予報」2026年7月31日
(https://www.fra.go.jp/home/kenkyushokai/press/pr2026/files/20260731_surume-jpnsea.pdf)